
silver-soul

たいむぱーそん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

silver-soul

【Nコード】

N8338J

【作者名】

たいむぱーそん

【あらすじ】

神楽「ぎゃあああああ！

銀チヤアアン！

作者の部屋にゴキブリがア！」

銀時「違う違う

作者の部屋がいくら汚いからって…ゴキブリが出るほどじゃないだろ…」

神楽「銀ちゃん…後ろ…」

銀時「ん？」

「万事屋銀ちゃん」

神楽「ぎゃああああ

助けてエエエエー！！

ドゴ（襖を吹っ飛ばす）

ヘルス！

ヘルスミィー！！」

銀時「ヘルプミィな

・・・どした」

神楽「ゴツゴツ

ゴキブリいい！！

私っ・・・私の部屋！！」

銀時「何だ お前

宇宙最強のくせに

ゴキブリだめなの？」

神楽「ダメ！油ギツシュ！！

シェイプ！

シェイプアップ乱！！」

銀時「ヘルプミィな

お前なア

江戸で生きてくって

事は ゴキブリと

共に生きていく事と

同じ事だぜ 見とけ

江戸っ子の生き様を

パン（襖を開ける）

！！

うおおおおお！！」

新八「！」

ガララ（戸を開ける）

おはよーございまーす

…どしたんですか？」

銀時「ゴツ・・・ゴキブリ！

ものっそいゴキブリ」

神楽「パルプ！

パルプフィクション」

銀時「ヘルプミーな」

新八「ハア？ ゴキブリ？

何を今さら・・・

江戸で生きてくって

事はねエ ゴキブリと

同じ部活に入るよーな

もんですよ

見といってくださいよ

江戸っ子の心意気」

銀時「オイ 志村 うしろ」

（巨大ゴキブリが真後ろに）

新八「ぎゃっふアアア！！

へっ・・・ ヘルペス！

ヘルペスミー！！」ドガシャッ（パニック状態）

銀時「ヘルプミーな」

「スナックお登勢」

アナウンサー「えー

今日は通常の

番組内容を変更しまして

江戸中で異常発生している

巨大ゴキブリについて
徹底討論していきたい
と思います

それにつきまして

宇宙中の動物の権威で

あらせられる 央国星の

ハタ皇子様に色々うかがい

たいと思います

さつそくなんですが 皇子

アレは本当にゴキブリ

なんですかね？」

ハタ「ゴキブリには違いはないが

地球産ではあるまい

恐らく 地球に入ってきた

異星の 船と共に江戸に

入りこんだのじやろう」

アナウンサー「宇宙ゴキブリ

というわけですか」ハタ「スペースゴキブリじゃ」

アナウンサー「いや

宇宙ゴキブリでいいでしょ」

ハタ「スペースゴキブリって

言ってるんだろ やんのかコラ

ちよつとカメラ止める」

キャサリン「宇宙ゴキブリ

デスッテ」

お登勢「いやだね」

まさかウチには

いないだろうね

ガタガタ（二階の物音）

「！」

〔万事屋〕

新八「なんスカ アレ

なんであんなん

いるんスカ？」

神楽「あれ ホントに

ゴキブリ アルか」

銀時「しらねーよ」

新八「しらねーよって

アンタの家でしょ

アンタがつくりだした

化け物だ」神楽「君のだらしない生活が

あんな悲しいモンスター

を生み出してしまった

んだヨ 銀時君」

神楽「てめーも住んでるよーな

もんだろうが！！

こいつア仮説だが

俺ア 恐らくコレが

関係してると思う」

（かじられた酢昆布を出す）

神楽「あ 私の酢昆布

・・・食べられてる」

銀時「恐らく 酢昆布を食する

ことによって 奴らの

中で何かが予測できない

超反応が起こり

あんなことに」

神楽「マジでか！！」

新八「ヤバイよ

あんなモン誕生させた上
もしあれが街に逃げたら
僕ら 袋叩きですよ」

銀時「そうなる前に

俺達で駆除する

なんとしても

この家から出すな

新八 殺虫剤どうした？

恐らく効かねーだろうが
ないよりはマシだろう」

新八「あつ あつちに置いて
きちゃった」

銀時「お前勘弁しろよ」 お前
はホントに新八だな」

神楽「だからお前は
いつまでたつても

新八なんだヨ」

新八「なんだアア！！

新八という存在

そのものを全否定か！！
許さん！許さんぞ！

とつてきてやるよ

コノヤロー！

巨大ゴキブリが

なんだチキショー！！

てめーのケツくらい

てめーでふくよ！

血が出るまで

ふき続けてやるよ！」

スー（そつと戸を開ける）

ゴロゴロゴロ（連続前転）

ガッ（殺虫剤を掴む）

ザッ（立ち上がる）

ガササ（ゴキブリの音）

新八「！

ザザザザ（襲ってくる）

ぎゃああああああ」

「スナックお登勢」

アナウンサー「えー

宇宙ゴキブリの

被害にあわれた方から

次々とFAXが送られてきます

中には 赤ん坊が襲われた

ペットが食べられた

などという 大変恐ろしい

情報を入っているですが…

どうですか 皇子？」

ハタ「ゴキブリは

肉食じゃからの」 皆さん

気をつけてたもれ あと

絶対に殺してはいかん

さっき言った通り

大変なことになるぞ」

アナウンサー「まったく

厄介ですね

肉食怪虫ゴキブリと

いったところでしょうか」

ハタ「肉食怪虫ゴツキブリ

じゃ」

アナウンサー「いや

ゴキブリでいくから」ハタ「ゴツキブリって

いってんだから

もっかいやるか コラ」

キヤサリン「殺シチャ

ダメナンドッテ」

お登勢「あぶない あぶない

殺るところだったよ

・・・でも 一体何が

起こるってんだイ

ガタガタ（二階の音）

？・・・さっきから

何やってんだアイツら」

〔万事屋〕

銀時「うらアアアア！！」

神楽「死ねエエコラアア！！」

バンドンボコ

（ゴキブリをボコボコに）

銀時「てめっ 一人で大きく

なったよーな顔

しやがってよオオ！！

誰がここまで

育ててやったと

思ってたんだアア!？」

(ゴキブリが大人しくなる)

銀時「新八は？」

神楽「見あたらないヨ

銀ちゃん・・・

新八まさかコイツに」

銀時「バカ言っちゃイカンよ

たかだかデカイ

だけのゴキブリに...」

ゴキブリ「ゲポッ」

(ゴキブリから眼鏡が出てくる)二人「!.....」

銀時「新ハイイイ!!」

ドコドコドコドコ(蹴る)

神楽「出せエエエエ!!

てめっ 出せこらアア!!」

銀時「何味だった!？」

新八は何味だった

コルア!!

コーンポタージュか!

それとも

めんたい味なのかア!!」神楽「銀ちゃん

定春もいないヨ

前回の話以来

見てないヨ!」

銀時「何味だった コルア!!

たこやき味か!それとも

サラミ味なのかア!!」

ゴキブリ「キシヤアアア」

神楽「オヤオヤ

泣いちゃったよ

このぼつちゃん」

銀時「泣いてすむならなア

ポリスはいらねーんだ

バカヤロー」

神楽「兄貴イ

マジ こいつどーして

やりましょーか」

銀時「とりあえず

事務所こい・・・

(戸が倒れる)

！」

ザザザザザ(ゴキブリが沢山)

二人「・・・・・・・・」

「スナックお登勢」

アナウンサー「えー

くり返しお伝えします

ゴキブリを見ても絶対に

殺さないでください

仲間を呼ぶ恐れがあります

絶対に殺さないでください

・・・しかし バ：皇子

これでは私達には

ゴキブリに対抗する

手段がありませんね

一体どうすれば

いいんですか？」

ハタ「オイ 今 バカ皇子って

言いそうになったろ」

アナウンサー「あっ

中継の方が

つながった模様です」

ハタ「オイ

ごまかしてんじゃねーぞ」

アナウンサー「花野アナ！」 花野アナ「ハイ こちら 怪虫

ゴキブリの被害が

最も甚大なかぶき町です

見てください

この街の悲惨な状況を

いたるところに 怪虫の

不気味な姿が見つけられます

たった一夜にして ここまで

数を増やす恐るべき繁殖能力

一体 江戸は

これからどうなって

しまうのでしょうか？」

アナウンサー「かぶき町にばかり

ゴキブリが集中する

この怪現象に 何か

理由はあるんですか

皇・・・バカ皇子」

ハタ「なんで言い直した！？」

そのままいけばよかった

じゃん！！お前 絶対

あとで殺すからな！！

いや余が手を

くださずとも貴様らは

このままでは いずれ死ぬ」

アナウンサー「！」

ハタ「よくきけ

かぶき町に奴等が

群がっているのはなア

恐らく あそこに奴等の

女王がいるからじゃ

奴等はすべて一匹の雌から

生まれた兄弟 まず女王が

星に巢食い そこで

大量の子を産む 奴等は

そうして幾つもの星を

食らい尽くしてきた

恐るべき種族 女王がいる

限り奴らは際限なく

増え続けるぞ このままでは

この星は終わる」

アナウンサー「それでは 我々が

助かる道は その女王を

退治するほかないと・・・

そーゆーことですか バカ」

ハタ「皇子はつけよう！」

バカでもせめて

皇子はつけよう！」

アナウンサー「何か女王を

判別する

目印のようなものは？」

ハタ「無理じゃ 奴等の女王は

普通のゴキブリの大きさと

変わらん

・・・ん いや待て 一つだけ

他と違うものがあつたな

背中に五郎つて書いてある」

アナウンサー「なんですか？

その五郎というのは」

ハタ「余がつけた名じゃ

五郎の奴め あんなにかわい

がってやったのに カゴから

勝手に逃げおつて」

アナウンサー「お前 今なんつった？」

ハタ「え？ なんか今

マズイこと言った・・・あ」

ピー（しばらくお待ち下さい）

キャサリン「背中二五郎デスッテ」

お登勢「無理無理

終わつたね 地球」（万事屋）

銀時「だー こっち来るな

つてーの 一体

どーなつてんだ？

ゴキブリの逆襲かよ

こんなことなら

もっとゴキブリに

優しくしときゃ

よかつたなオイ

オイ 神楽 お前

寝てる場合じゃ・・・」

神楽「エヘヘ ゴキブリが三匹

ゴキブリが四匹

ゴキブリが五匹」

銀時「神楽ちゃアアあん！？

ダメだよ そんなもん

数えながら寝たら！

ネバネバの部屋に閉じ

こめられる夢見るよ！！

オイ　しっかりしろ

！！」

カサカサ

（通常サイズのゴキブリ）

〔TV〕

アナウンサー「背中に五郎

背中に五郎です

背中に五郎の

ゴキブリさえ退治すれば

他のゴキブリたちも

全て死に絶えます

お願いします　地球の命運が

かかっています

あなたの手に地球の命運が」

〔万事屋〕

銀時「……………なんだコレ

なんで　五郎？

……妙なもんだな

いつもは見ただけで

鳥肌モンだが

こんな状況じゃアな

運がいいぜお前

ポイ（逃がす）

きつちり恩返しして

くれよな」

新八「ぬおおおお」

ドカッ（ゴキブリ吹っ飛ぶ）

銀時「！！」新八「銀サアアアン！
プシッ」（巨大殺虫剤）

新八 たいま

戻りましたアア！！」

銀時「お前 生きてたのか！！」

新八「そんなことより 外

エライ事になってますよ

街中 酢昆布ゴキブリが

ウジャウジャで

もう大騒ぎ」

銀時「やべーな 俺らの

せいだつてバレたら

打ち首だぜ」

新八「なんか 変な噂まで

流れてましたよ

こいつらが 宇宙から

やってきた 人喰い

ゴキブリだとか

背中に五郎って書かれた

女王ゴキブリを殺さ

ないと地球は滅ぶとか

もう笑っちゃいますよね

アッハハハハ」

銀時「アッハハハハ

ホント・・・

笑っちゃうな

俺 地球を滅ぼした

魔王になっちゃったよ」

新八「アッハハハハ

え？

えゝえゝえゝえゝ

見たんか！ 五郎さん

見たんか！ ここに

いたんかアア！！」

銀時「アッハッハッー

逃がしちゃったよ俺

地球滅ぼしちゃったよ」

新八「どどどどこおおお！！？

早く見つけないと…」

銀時「無理無理 もうどつか

行っちゃったって

それよりステーキ食いに

行こう 死ぬ前に

ステーキ食いたい

どうせみんな死ぬ

んだからヒッヒッヒッ」新八「ちよつとオオ！！

銀さん しっかり

してくださいよオ！！

銀さん！！」

カサカサ（五郎 隣の部屋へ）

（コタツにいる定春と対面）

二匹「……………」

バン（定春 叩く）

ぷち（五郎 潰される）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8338j/>

silver-soul

2010年10月28日06時54分発行